

チャンス・チャレンジ・チェンジ



秋田県立支援学校天王みどり学園 加賀谷 勝

「あるがままの姿」と「当たり前」

最近、テレビやインターネットで話題になった二つのニュースを取り上げます。

1 みんなに愛された「電車くん」のラストラン ABC朝日放送「探偵ナイトスクープ」より

- 6年間自作の電車で校内を走行した6年生のある男の子が紹介されていた。休み時間になると、段ボールで作った電車を頭からかぶってグラウンドを回る。車掌のアナウンスや電車音をまねながら走行する彼の後ろには、いつの間にか長蛇の列ができる。彼はみんなから、**電車くん**と呼ばれている。



- いくら電車が好きだからとはいえ、校内で電車ごっこをしている姿は、6年生の「あるべき姿」とはいえない。彼は何度か電車ごっこを卒業しようと思ったことがある。しかし、その度に校内の先生方が、「途中下車反対の看板」を作り、今まで通りにみんなの楽しみを続けてほしいと反対したり、「電車くん」の姿を1年生から撮り続けたりしている。「変わっている人」「もう高学年だから辞めなさい」と言われてもおかしくない状況なのに、電車くんの「あるがままの姿」を受け入れた先生方の対応に驚いた。

- 小学校卒業に合わせて電車ごっこも卒業。そして、「電車くん」のラストランの日を迎えた。この日のために父親が作ってくれた新しい電車を頭からかぶり、いざ出発！ 小学校のグラウンドや商店街には、別れを惜しむ大勢の人たちが見守っていた。「電車くん」を「あるべき姿」に近づけようとせず、「あるがままの姿」を尊重した先生方の指導のおかげで、「電車くん」はいじめやからかいの対象にならず、好きな電車を通してたくさんの人を喜ばせることができた。「あるべき姿」を想定した「みんなに合わせる」指導と、「あるがままの姿」を尊重した「子どもの良さを伸ばす」指導の組合せが大切である。

2 道に散乱した紙を拾い集めた高校生に感謝状！ 1月6日（金）「埼玉新聞」より



- 埼玉県こしがのすの鴻巣署は4日、県道に散乱していた古紙を一人で回収した埼玉県立鴻巣高校1年の湯本里咲さんに感謝状を贈った。見て見ぬふりをして通り過ぎる自分を受け入れられず、後先のことを考えずに一心不乱に集めた行動は、周囲の心を揺り動かした。

・自転車で通学している湯本さんが、昨年12月21日夕方、県道を通りがかった際、新聞紙や折り込みチラシが大量に散乱しているのを目の当たりにした。一度はそのまま通り過ぎたものの、「何もしていない自分に辛くなった」と戻って来て拾い始めた。初めは古紙を自転車のかごに積んで自宅に持ち帰ろうとしたが、収まり切れない。そこで、コンビニでゴミ袋を買って、再び拾い集めた。現場は交通量の激しい通り。湯本さんは青信号になる度に、ひたすら拾い続けた。

- 湯本さんは、学校周辺のごみ拾いをしてからバスケ部の練習に取り組んでおり、「学校でもやっているので当たり前と思って拾いました」と振り返った。湯本さんの心を揺り動かしたものは、散乱している古紙がドライバーや歩行者の安全の妨げになるという「他者を思う気持ち」、毎日美化活動に取り組んでいる「実践的な行動」、そして、ほんのちょっとした「勇気」だった。当たり前は初めからあるものではなく、つくるものである。「誰かが」ではなく「自分が」他者のために行動することを当たり前にできる子どもを育てたい。感謝状を贈られた湯本さんは「周りのことをもっと見られる一年にしたいです」と語った。